

# 第 102 回 地区内中小企業 景 気 動 向 調 査 結 果

(平成 26 年 4 月～ 6 月実績)

(平成 26 年 7 月～ 9 月予想)

\*\*\*\*\* 目 次 \*\*\*\*\*

地区内データベース	.....	1
全国 ・ 全道の概況	.....	4
調査の概要	.....	5
全業種総合	.....	6
製造業	.....	9
建設業	.....	11
卸売業	.....	13
小売業	.....	15
サービス業	.....	17
特別調査	.....	19

# 地区内データベース

## 1. 人口・世帯数動向 (平成26年6月末)

町村名	人 口			世 帯 数		
	人 数	前年同月比	3 月 末 比	世 帯 数	前年同月比	3 月 末 比
平 取 町	5,534	6	46	2,672	57	33
日 高 町	12,908	-303	84	6,425	-113	69
新 冠 町	5,735	-75	9	2,697	-3	16
新ひだか町	24,383	-490	29	12,117	-106	75
浦 河 町	13,354	-241	-17	6,903	-62	8
様 似 町	4,733	-144	9	2,251	-35	5
え り も 町	5,162	-69	45	2,159	14	37
広 尾 町	7,517	-118	44	3,490	15	45
大 樹 町	5,885	-36	47	2,664	10	48
日高・十勝地区合計	85,211	-1,470	296	41,378	-223	336
札 幌 市	1,933,818	6,850	4,886	1,013,311	11,404	5,547
江 別 市	120,379	-478	182	55,169	354	357
石 狩 市	59,556	-616	-221	26,972	32	-29
北 広 島 市	59,763	-203	46	26,700	220	140
恵 庭 市	68,780	-115	29	31,215	161	149
千 歳 市	95,327	369	627	46,492	554	490
石狩地区合計	2,337,623	5,807	5,549	1,199,859	12,725	6,654
苫 小 牧 市	174,106	-172	222	86,297	773	385
厚 真 町	4,714	-36	2	2,094	8	4
む か わ 町	9,102	-227	3	4,506	-39	45
胆振地区合計	187,922	-435	227	92,897	742	434
営業区域合計	2,610,756	3,902	6,072	1,334,134	13,244	7,424

(資料出所：各市町村)

\*平取町、日高町、えりも町の人口に外国人登録者数は含まれていません。

## 2. 企業倒産状況 (平成26年4～6月中)

千万円

単位：件・千万円	件 数	負 債 金 額	件数前年同期比	金額前年同期比
苫 小 牧 管 内	4	289	-5	67
(内・新冠町～えりも町)	2	14	-2	-44
業種および件数	サービス業3件、小売業1件			
地区および件数	むかわ町1件、苫小牧市1件、新ひだか町1件、浦河町1件			
北 海 道	77	1,765	-19	-51,079
全 国	2,613	50,577	-228	-73,725

(資料出所：東京商工リサーチ)

### 3. 労働需給状況

平成 26 年 4 月

	浦 河 (人・倍)	全 道 (人・倍)	前年同月比(%・ポイント)		前月比(%・ポイント)	
			浦 河	全 道	浦 河	全 道
月間有効求人数	927	81,265	27.86	11.51	-1.07	-0.65
月間有効求職者数	1,045	107,401	-7.44	-10.61	5.45	7.96
月間有効求人倍率	0.89	0.76	0.25	0.15	-0.06	-0.06

平成 26 年 5 月

月間有効求人数	860	79,982	19.61	11.66	-7.23	-1.58
月間有効求職者数	961	104,844	-10.02	-10.97	-8.04	-2.38
月間有効求人倍率	0.89	0.76	0.22	0.15	0.00	0.00

平成 26 年 6 月

月間有効求人数	879	79,342	25.75	10.39	2.21	-0.80
月間有効求職者数	865	100,405	-8.95	-9.56	-9.99	-4.23
月間有効求人倍率	1.02	0.79	0.28	0.14	0.13	0.03

(資料出所：浦河公共職業安定所)

### 4. 浦河町・新ひだか町静内 金融機関預金・貸出金残高 (平成 26 年 6 月末現在)

単位：百万円・%

預 金			貸 出 金		
残 高	前年同月比	前 月 比	貸 出 金	前年同月比	前 月 比
124,626	2.96	0.80	48,293	-5.49	-1.62

(資料出所：浦河・静内金融協会)

### 5. 浦河町・新ひだか町静内 手形交換高

平成 26 年 4 月

	当 月	前年同月比 (%)	前月比 (%)
交 換 枚 数 (枚)	361	-39.43	4.94
交 換 金 額 (百万円)	347	-62.24	6.12
不渡り手形枚数 (枚)	4	91.30	66.67
不渡り手形金額 (百万円)	2	-92.86	-60.00

平成 26 年 5 月

交 換 枚 数 (枚)	217	-52.93	-39.89
交 換 金 額 (百万円)	235	-70.44	-32.28
不渡り手形枚数 (枚)	3	-96.25	-25.00
不渡り手形金額 (百万円)	1	-96.88	-50.00

平成 26 年 6 月

交 換 枚 数 (枚)	416	31.23	91.71
交 換 金 額 (百万円)	404	-42.29	71.91
不渡り手形枚数 (枚)	2	-97.22	-33.33
不渡り手形金額 (百万円)	1	-97.56	0.00

(資料出所：浦河・静内金融協会)

## 6. 建築確認申請

単位：件数

		件 数	前年同期比	前四半期比
当 金 庫 管 内	26/ 4～26/ 6 月中の申請	56	4	42
(新ひだか町～広尾町)	26/ 4～26/ 6 月迄の累計	56	4	

(資料出所：各町村)

## 7. 気象情報

平成 26 年 4 月中

	本 年			平年偏差・平年比		
	気温 (℃)	降水量 (mm)	日照時間	気温 (℃)	降水量 (%)	日照時間 (%)
浦 河	4.7	45.5	288.0	-0.3	60.19	155.09
広 尾	5.5	68.0	275.9	0.5	60.34	150.27

平成 26 年 5 月中

浦 河	10.3	57.5	191.5	1.0	47.44	101.16
広 尾	10.6	84.5	182.6	1.3	52.42	103.99

平成 26 年 6 月中

浦 河	14.9	78.5	143.2	1.8	88.90	98.35
広 尾	13.4	186.0	106.7	1.2	131.73	84.21

(資料出所：国土交通省 気象庁)

## 全 国 ・ 全 道 の 概 況

信金中央金庫がまとめた全国の信用金庫の窓口からみた中小企業の景況によると、平成26年4～6月期(今期)の業況判断D Iは $\Delta 11.7$ と、前期比8.9ポイントの大幅な水準低下となった。ただ、前回調査における今期見通し( $\Delta 17.2$ 、前期比14.4ポイントの低下見通し)に比べれば、小幅の低下にとどまった。収益面では、前年同期比売上額および収益の判断D Iが、それぞれ $\Delta 1.6$ 、 $\Delta 8.0$ と、ともに低下した。販売価格判断D Iは8.9と、大幅に上昇した。人手過不足判断D Iは $\Delta 13.6$ と、不足感が緩和した。業種別の業況判断D Iは6業種全てで低下したが、建設業と不動産業はプラス水準を維持し相対的に堅調だった。地域別には、11地域すべてで低下した。平成26年7～9月期(来期)の予想業況判断D Iは $\Delta 7.7$ 、今期実績比4.0ポイントの改善見通しとなっている。業種別には不動産を除く5業種で、地域別には四国を除く10地域で改善する見通しにある。

日本銀行札幌支店が6月24日発表した金融経済概況によると、北海道地域の景気は、緩やかに回復している。すなわち、最終需要面の動きをみると、公共投資は、増加している。輸出は、増加している。個人消費は、雇用・所得環境等の改善を背景に、緩やかに回復している。観光は、好調さを維持している。住宅投資は、減少しつつある。生産は、国内外の堅調な需要を背景に、増加している。雇用・所得情勢をみると、労働需給は着実に改善している。雇用者所得は回復している。

需要項目別動向

- 個人消費……雇用・所得環境等の改善を背景に、緩やかに回復している。消費税率引上げによる駆け込み需要の反動減は、一段と縮小してきている。なお、足もとでは、天候要因から、一部で弱い動きがみられている。大型小売店売上高は、消費税率引上げによる駆け込み需要の反動減が、衣料品や身の回り品、高額商品についても縮小してきているほか、食料品の販売が堅調であることから、着実に回復しつつある。コンビニエンスストア売上高は、新規出店効果や顧客層の広がりもあって、堅調に推移している。乗用車販売では、新型車の投入効果もあり、消費税率引上げによる駆け込み需要の反動減が縮小してきており、底堅く推移している。家電販売は、パソコンの売上が好調な中、白物家電や薄型テレビなど幅広い品目で反動減が縮小する動きがみられており、緩やかに回復しつつある。観光については、好調さを維持している。国内観光客は前年並みで推移しているほか、外国人観光客もアジアを中心に引き続き増加している。国内観光客、外国人観光客ともにより高額な客室やプランを選択する動きなどがみられ、支出額は増加傾向にある。道内客の旅行、ゴールデンウィーク期間中の海外旅行は曜日構成の悪さから伸び悩んだものの、その後は国内旅行、海外旅行ともに好調に推移している。この間、単価の高い旅行商品への需要も底堅く推移している。
- 公共投資……増加している。公共工事の発注の動きを示す公共工事請負金額をみると、2014年度予算の発注時期の前倒しなどから増加している。
- 住宅投資……減少しつつある。新設住宅着工戸数をみると、貸家は前年を上回っているものの、持家は消費税率引上げ前の駆け込み需要の反動などから、前年を下回っているほか、分譲は減少している。この間、建設業者の人手不足や建設コストの上昇などから、分譲を中心に住宅投資を見送る動きがみられている。
- 雇用・所得……労働需給は着実に改善している。雇用者所得は、回復している。有効求人倍率(常用)は、幅広い業種で人手不足感が強まり、新規求人数が増加していることなどから、前年を上回って推移している。この間、新規求人数に占める正社員比率も上昇傾向にある。雇用者所得は、常用労働者数が増加する中、特別給与の増加に加え、所定内給与についてもベアを含めて引き上げる動きがみられており、回復している。